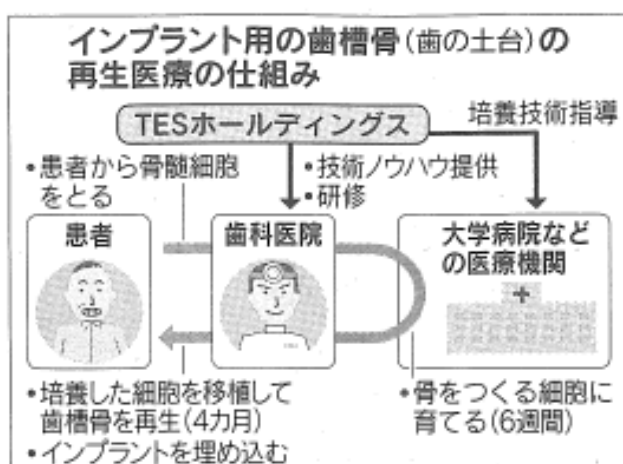


# 自分の細胞から歯の土台

# 再生医療、全国展開へ



## TES 骨削る移植不要

バイオベンチャーのTESホールディングスのT(東京・文京、林明男社長)は10月から、歯の土台となる「歯槽骨」を患る再生医療の事業を本格展開する。歯周病などで傷んだ歯を再生させるインプラント(人口歯根)埋め込み治療に使う。東京大学医科学研究所との共同研究で安全・有効性を確認したのを受け、全国から提携先の歯科医院を募り、数年後に300、500カ所まで再生医療を実施する体制を整える。

歯周病などで歯が抜け、数年後に300、500カ所まで再生医療を実施する体制を整える。

歯槽骨が薄くなった人、現在では患者の腰やあら募る。骨髄細胞を元に骨をつくる細胞を培養する。TESは東大医科研究の医療・研究機関とも提携していく。TESは10月以降、提携先の歯科医院と医療・研究機関に有含んだインプラント市場は10年の270億円から15年には600億円まで拡大する見込み。

東大医科研は8月、付属病院内に再生医療を実施する診療科を開いた。TESは今後、同医療を手がける歯科医院を全国から募る。TESは2002年の設立で、11年6月期の売上高は約3億円。化粧品・食品の臨床研究受託のほか、肌や骨の再生医療を手掛ける。新エネルギー・産業技術総合開発機構によると、再生医療を

患者にとり歯槽骨の再生にかかる時間も3分の1の4カ月程度になる。TESが協力する形で別途、インプラント手術代がかかる。

患者にとり歯槽骨の再生費用は歯3、4本で40万円程度になる見込み。